

カトウ・サイン工業 創業100年

信頼性の高い製作・施工

加藤紘一社長、貴之専務に聞く

街々を結びつけて1世紀。新潟のカトウ・サイン工業(加藤紘一社長)が今年4月、創業100年を迎えた。同社は加藤氏の祖父・加藤岩松氏が1914年に創業。その後、父・行雄氏、叔父・高弘氏が社となり、業容を広げながら、95年7月、紘一氏が4代目に就任した。同社は「信頼性の高い製作・施工」をモットーに、3D CADマシンや大型プリンターなどの設備導入、社員資格取得に注力してきた。近年では新潟スタジアム(ビッグスワン)のサイン工事(「V」)などを受注している。創業時から、そして現在の業務内容、今後の経営方針などについて、社長、貴之専務、雅之取締役営業部長に話を聞いた。



加藤紘一社長を中央に、右は加藤貴之専務、左は加藤雅之取締役営業部長(本社会議室にて)

社長 私の祖父・岩間 間寛はかりの収入しかなかった。松、ヤマの2人が1914、生活は苦しかった。4年4月に会社を興した。元々、岩松は仏壇の彫刻師で彫り職人。手、酒蔵から看板の文字を彫り、ヤマが金箔を置いて製作、酒蔵に納めた。その後、ビル会社の広告宣伝(看板のぼり)や、県内外の酒造メーカーから様々な看板を元電気屋に取付け依頼するといったサイン工事も請け負うようになった。戦前のサイン工事は、市内の約3分の2を占めた。

人と社会のためになる事業

新潟市に六軒小路サイン寄贈へ

専務 社長がよく話す。安全が第一。事故を起こさないことが、継続して仕事の受注につながる。継続は力なり、という言葉もあるが、それが1世紀続いてきた結果だと思ふ。

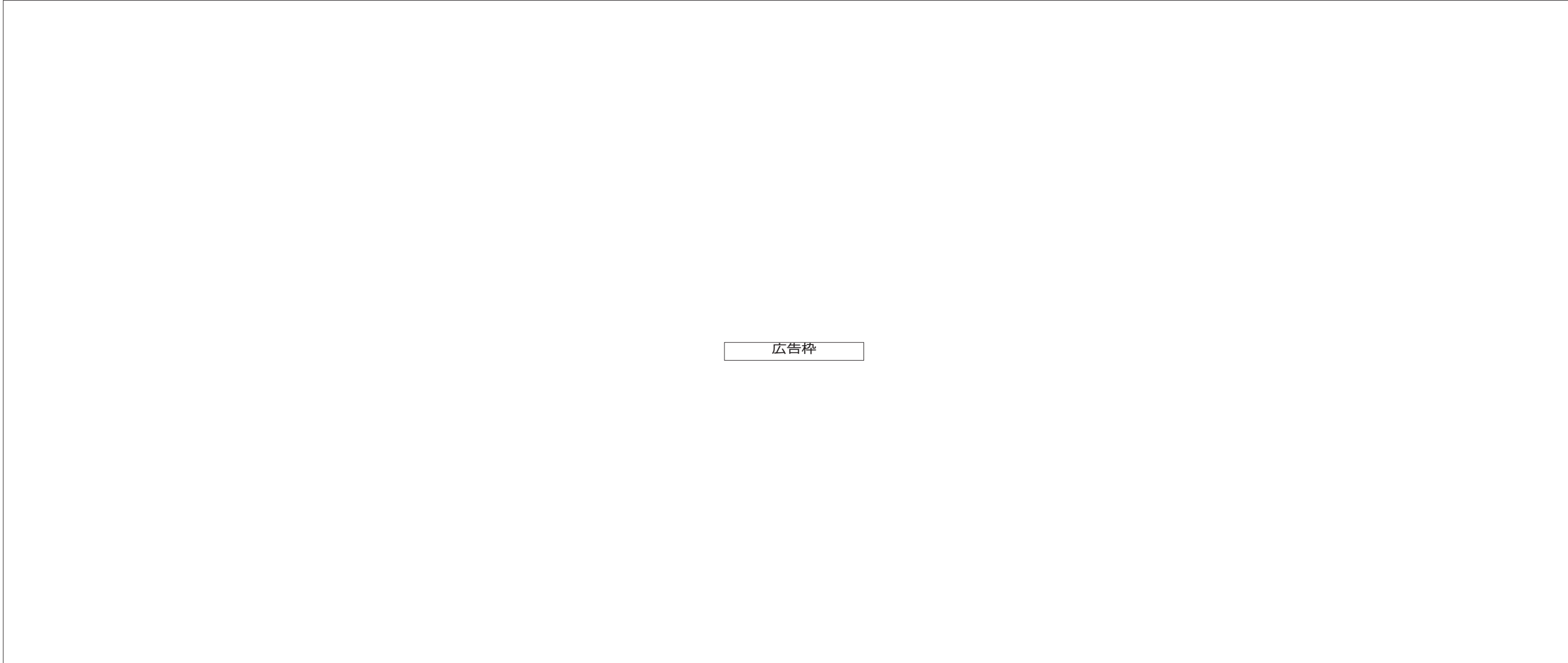
—安全な製作・施工
社長 社員や、当社の協力会社を集めた安全委員会を毎年6月に開催。当日は講習会のほか、安全教育ビデオを放映し、信頼性の高い施工はもたらさず、安全への意識向上に努めている。これにより、今年4月で100年を迎えるが、これまでに、サイン製作工事中で大きな事故を起こしていないのが誇り。

—営業部長 毎日の朝礼で、社長や専務から、社員に向けて安全施工に関する具体的な指導を頂いている。これが、無事故

—創業100周年関連事業について
専務 記念式典・祝賀会を、4月26日(土)に市内中央区の行形亭(いきなりや)で開催する。すでに地元関係者や、当社の協力会社、得意先を中心に招待状を送付。当日は約1000人が参加する予定だ。

100周年記念ロゴマークは、当社のデザインが昨年夏に制作、対外的にPRしてきた。街々を結びつけて1世紀Gottagneのキヤッチフレーズは、次の100年をもう一段アップアップし、おま伝いではなく、自らが主体的に社会に貢献する企業になりたいという想いを込めたもの。

また、主体的に社会に貢献する、という題目を掲げたが、その第一歩として新潟市に道標サイン「六軒小路サイン」を寄贈することとなり、今年*月には設置する予定。



広告枠